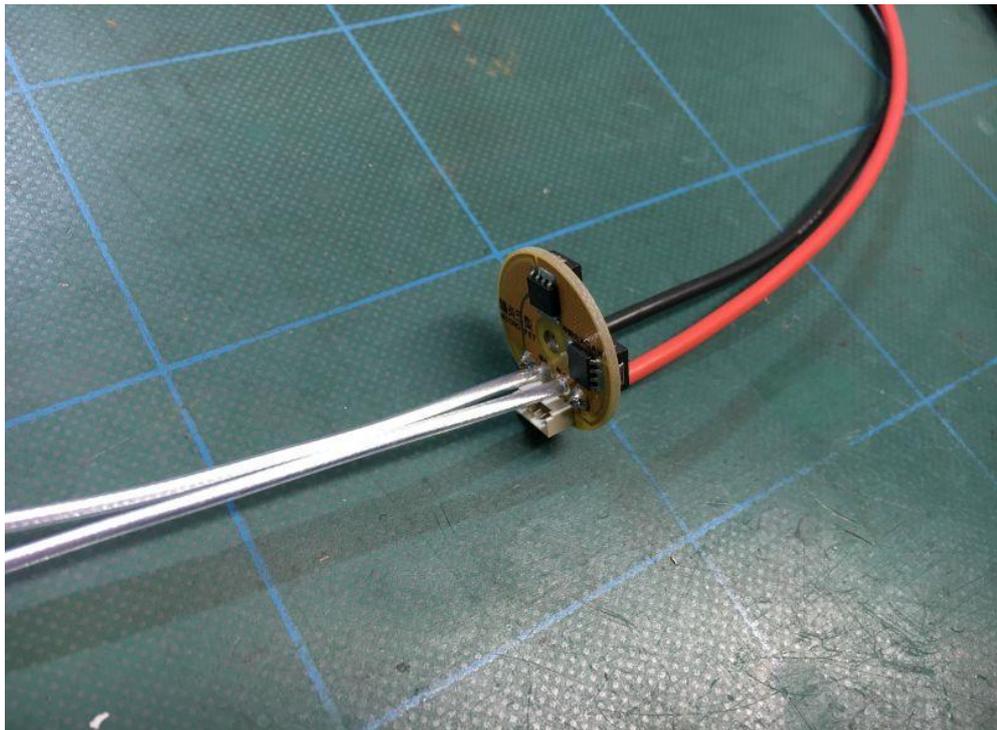
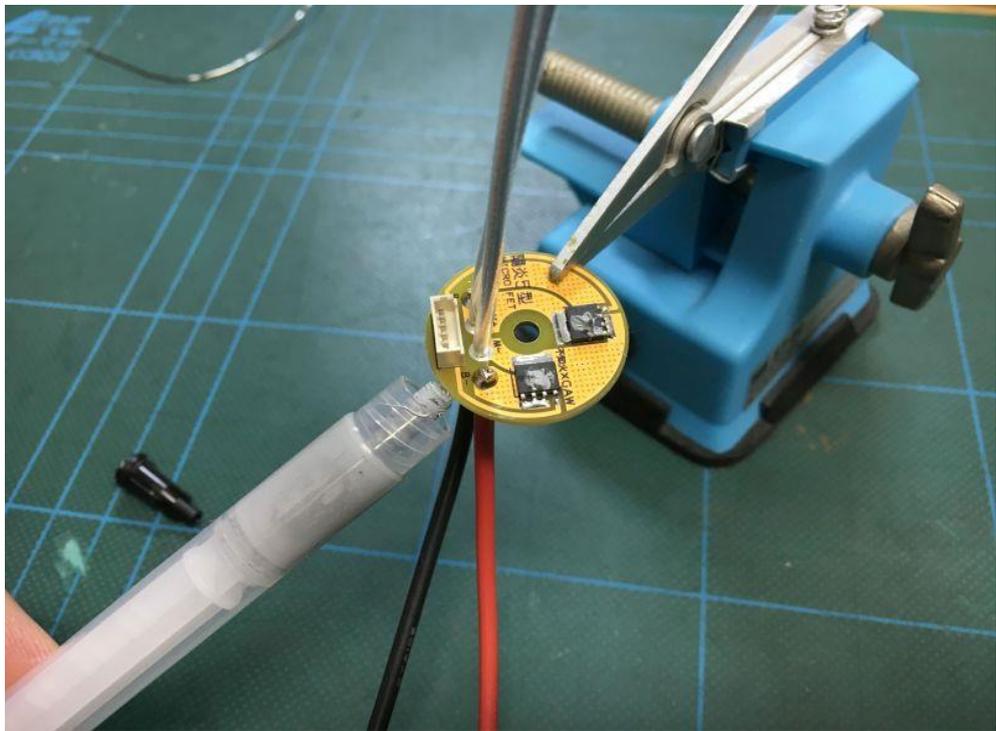


陽炎5型改 マイクロFET基板の組み立て説明です。  
内径Φ25.4mm(1インチ)のバッファチューブに対応しています。



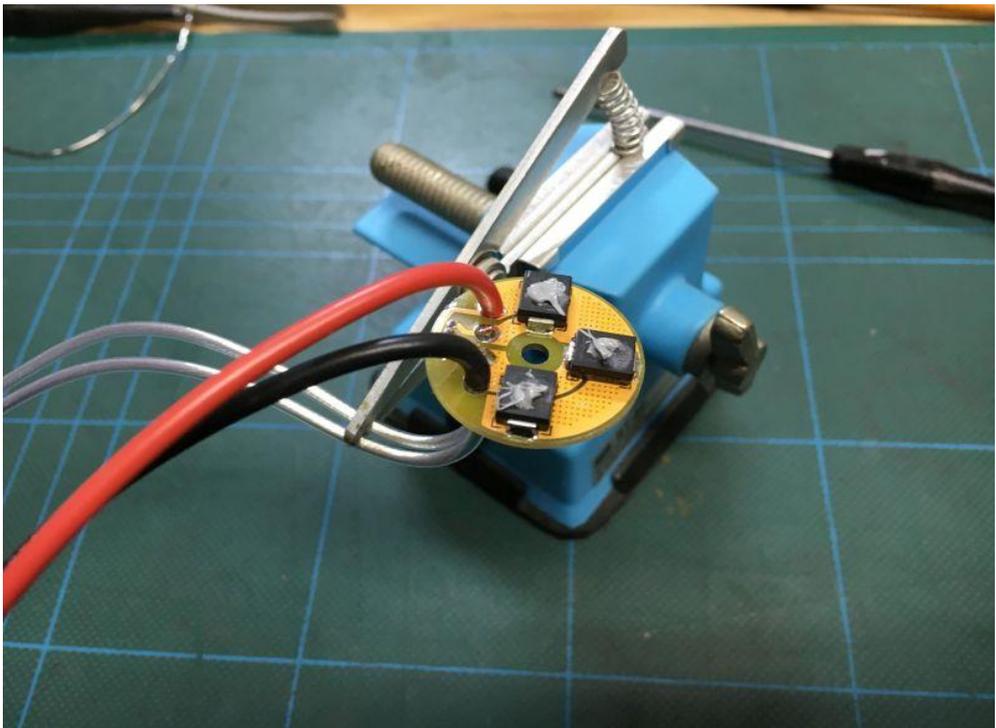
基板にプリントされた位置に従い、配線をはんだ付けします。  
M+がモータープラス側、M-がモーターマイナス側、  
B+がバッテリープラス側、B-がバッテリーマイナス側になります。

基板はスルーホールになっているので、前後どちらにでも配線を向けられます。

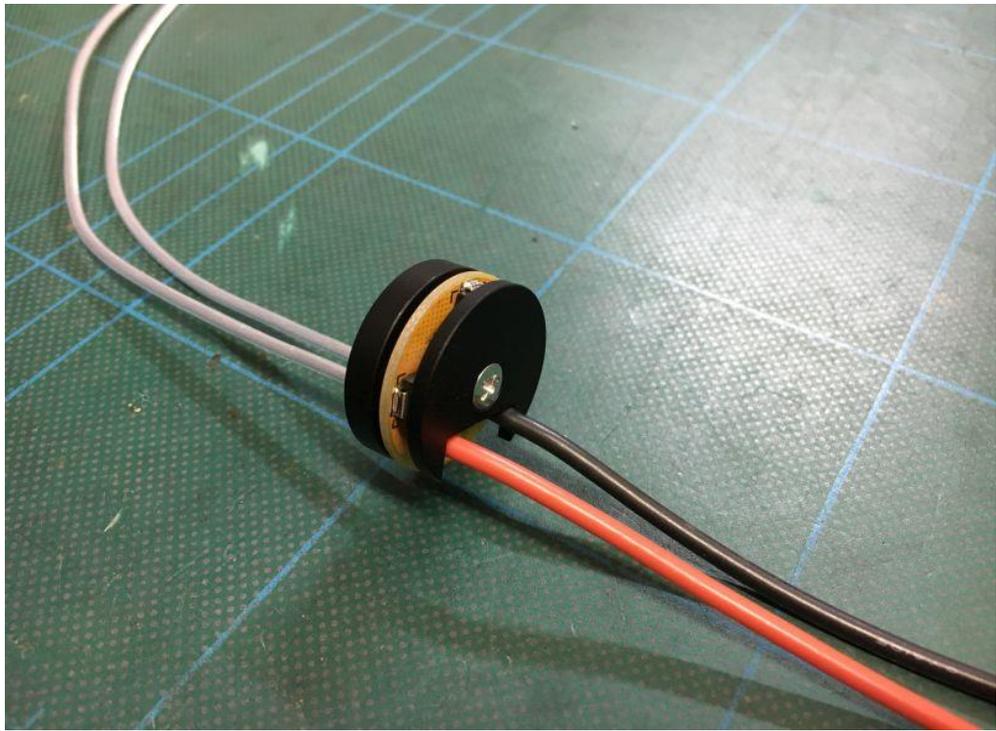


配線をはんだ付けした後、放熱板の取り付け準備に入ります。

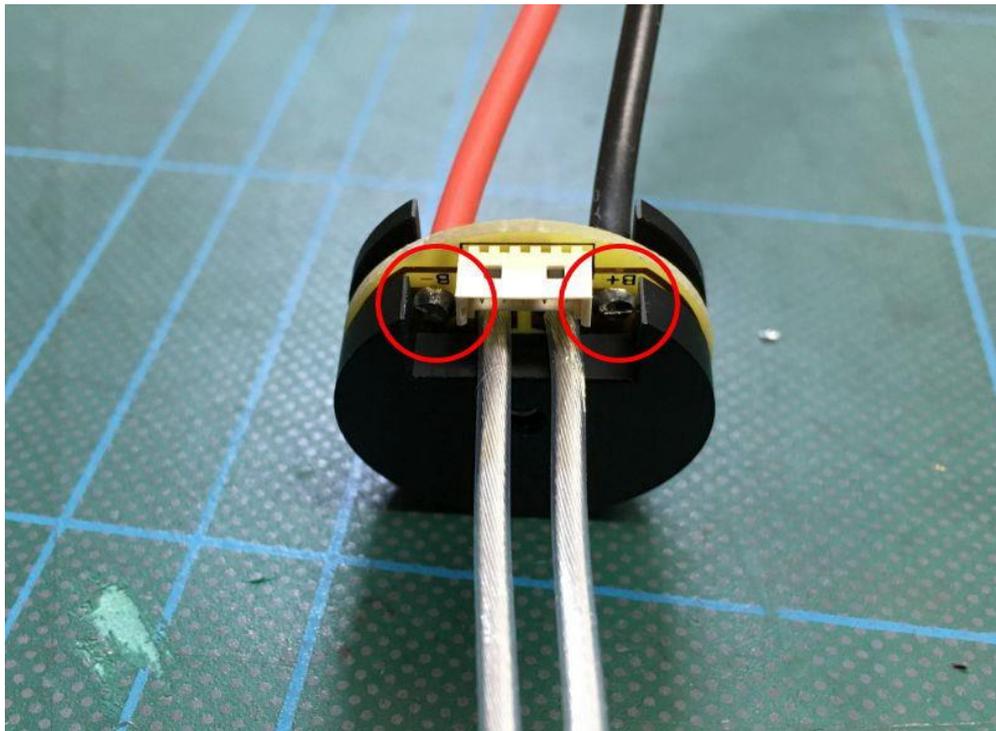
放熱効果を最大限発揮するため、FETの黒いパッケージ部分にCPUグリスを少量塗ります。CPUグリスはパソコン用で結構ですが必ず絶縁性グリスを使用し、絶対に導電性グリスは使用しないでください。



反対側にあるTVS3個の表面にも塗っておきます。



放熱板を2枚、付属のねじを使って取り付けます。  
放熱板は厚い方が信号線&FET側、薄い方がTVS(黒い長方形が3つある方)側となります。  
この時、放熱板の黒いアルマイトが剥がれていない事を確認してください。



ショートを防ぐため、配線のはんだ付け箇所が  
放熱板に接触していないか入念にチェックしてください。  
はんだ付けした配線が出っ張っている場合はニッパーなどで長さを整えてください。  
不安な場合はホットボンドなどで絶縁することをオススメします。



お好みの信号線を取り付け、バッファチューブ内に設置します。  
くれぐれも配線を挟み込んで断線させないように注意してください。  
バッファチューブ切り欠き部分の面取りを強くオススメします。



バッファチューブキャップの端っこをやすりやグラインダーで削って  
配線の逃がしをつけてあげると、組み込みがとても楽になり  
断線トラブルを防げます。